



こくろうよなご

第25号
2024年8月25日
発行責任者 倉下文明
編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

多様な働き方と仕事の見直しを！！

8月22日、9月5日の2回にわたり24年度の労働協約交渉が行われます。

また、コロナ禍での離職の増加もあり、各職場から要員不足の声が挙げられています。

今回の協約交渉に当たって米子地方本部から、本部に対して29項目の要求を提出してまいります。安心して働き続けられる職場を目指して、要求の前進に向け奮闘していかねばなりません。

「構造改革」なる効率化施策により、業務量が増え、一日中仕事に追いまくられているような実態ではないでしょうか。

この間、会社は、多様な働き方として、様々な背景や事情を持つ人が、生き活きと働ける職場づくりを進めるとしてきましたが、そうやってきたが、ようやく育児や介護などの制度を活用することが、

一部の人達だけではなく、全ての労働者が気持ちよく働ける環境を整えていきます。



があつてこそ、生産性の向上にもつながると考えます。

先日会社は、2024年度第一四半期決算を公表しました。構造改革などの成果もあり、4期連続での増収増益だそうです。

この利益をどれだけ働く者に還元させることが出来るのか、私たち労働組合の取り組みが如何にかかっています。

自動運転光と影！？

7月26日、全国大会2日目の前に、国労会館主催の労働講座が開催されました。テーマは、今はやり？の「自動運転」についてでした。なかなか難しくてうまく報告できませんが、印象に残った何点かを紹介します。

まず、自動運転の導入が進められているのは、自動車もあれば鉄道もあるわけですが、それぞれに目的は違うようです。鉄道でいえば、保安度や運転能率の向上の他、経営効率化や要員確保が困難であるため、なども理由だそうです。

安全性については、「運転士乗務と同等と断定出来ない」一方で、「安全性が低下していると断定も出来ない」など、断定できるものが現時点、無いような感じでした。

また、自動運転で懸念されるのは、やはり、異常時の対応という事になります。乗務員が対応していた作業をシステムや指令で対応出来な

い事象への対応が問題」だと言われていました。

また、「係員が全く介在しない自動運転のレベルになると「乗客（車内）セキュリティの確保が問題になる」と言われていました。特に、主観的安心感が低くなり、女性からの評価は低い」という事でした。

一方で、自動運転の導入で乗務が減ると地上勤となり祝日労働・深夜労働・交代制労働や長い待機時間などの解消も期待できるなどの話もありました。

さらには、鉄道の安全性の本質には、鉄道労働者の「やりがい」や「誇り」が背後にあるが、自動運転の導入によりそれを感じる場面が限定的となる、とも言われていました。

モチベーションが保てないという事でしょうか。エキスパート・プロフェッショナルとしての「やりがい」が持てる仕組みが課題だと言われていました。

喉元過ぎないうちに！？

連日、うだるような暑さが続いています。引き続き熱中症には、十分注意をしながら仕事に、日常生活にと向かい合いたいものです。一方、忘れてはいけないのは、地震・大雨や台風による甚大な被害が全国どこにも言わず、次から次へと伝えられてくることです。

改めて、いざという時の避難経路の確認など、生命を守るための行動についてご家族で確認して頂ければと思います。そして、万が一被災した場合の生活再建の支えとして、是非ともこくみん共済コープを活用いただきたいと思ひます。「喉元過ぎれば」とならないよう、声掛けをよろしくお願ひします。

打って変わった姿に驚き

8月4日・5日、被爆79周年原水爆禁止世界大会広島大会が開催され、「しまねへい

で「平和行進」を行ってききました。

そのデモ隊を監視・誘導する警察当局は、「歩道は歩かないで下

2日目の分科会の中では、「原爆ドーム」の世界遺産登録に、アメリカと中国が最後まで反対していたこと、

0名、（私の所属するまずだフォーラムからは6名）が参加してきました。

「前に詰めて感覚は開けないで下さい」とデモ隊を煽るような言い方で、「早く行進を終わらせよう」との印象を受けました。

「負の遺産」として人類を戒めると言う認識の下で、ようやく認められたという経緯について、はじめて聞くことが出来ました。

このままでも何年も参加していても構わず、まだまだ知らない事も多く、改めて「平和学習」の重要性を感じてきたところです。

木村 伸司

